



目次

生産現場情報：	「特産そば」の生産拡大をいかし、六次産業化に挑む 集落ぐるみ型農業法人～農事組合法人 大里ファーム～	P 1～4
営農支援情報：	主要花卉の現状と栽培ポイント	P 5～7
ご 紹 介：	国際教養大学の学食で秋田県産「サキホコレ」が振舞われました 「HAPPY TOGETHER ONE」プロジェクト第1弾～「サキホコレ」播種作業 全農杯 2023年秋田県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部) 秋田県予選会開催！ 農業用ドローンによる水稻種子散播実演会を行いました！	P 8 P 9 P 10 P11～12
お 知 ら せ：	第34回秋田県J A 農業機械大展示会開催案内	P 13

「特産そば」の生産拡大をいかし、六次産業化に挑む 集落ぐるみ型農業法人～農事組合法人大里ファーム～

1. 法人設立の経緯

秋田県の高齢化率や人口減少率は全国ワースト1位の状況で、その影響は農業にも及び、高齢化や離農に伴う耕作放棄地の増加は鹿角市でも深刻な問題となっています。

平成21年、当法人の浅石昌敏副理事が中心となり「地域の耕作放棄地を解消したい」との思いから、6.5ha畑地を借りてそば栽培を開始しました。

鹿角市独自の事業である「そばの里プロジェクト推進事業」を活用しながら、耕作放棄地を再生した畑地にそばを作付けしたことで、そばの栽培面積が平成22年に23ha、翌年には53haに広がりました。

また、八幡平地域の将来的な農地の受け皿機能としての役割を発揮するため、平成24年に法人を設立すると同時に、米とそばの乾燥調製施設を建設しました。その後も栽培面積は拡大を続け、令和5年度の栽培面積は、そば215ha、水稻31haに至っています。

法人名：農事組合法人大里ファーム

代表者：代表理事 安保春喜

所在地：秋田県鹿角市八幡平字大里124番地

構成：50名（役員9名、構成員41名）

設立：平成24年4月

経営の概要

- ・総面積 246ha
- ・そば栽培面積 215ha（品種：虹ゆたか）
- ・水稻栽培面積 31ha（品種：あきたこまち）
- ・そばの販売先：直売（商社、直売所）
- ・米の販売先：JAかづの
- ・施設：乾燥調製施設



安保代表理事

受賞歴

- ・耕作放棄地関連：平成25年 全国農業会議所会長賞（第5回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業）
- ・そば関連（「大日堂そば」）：平成27年 農林水産大臣賞、秋田県知事賞、第138回秋田県種苗交換会 会頭賞、令和2年（一社）日本麺類業団体連合会会長賞

※そば栽培を主体とした集落ぐるみ型（※1）の農業法人として、耕作放棄地解消とそばの六次産業化に努めたことが評価された。

2. 経営の特色

大里ファームの特徴は大きく2つあり、1つ目は、「集落ぐるみ型（※1）」の経営方式を発展させたことで246haもの広大な面積の栽培を可能にしている点です。

具体的には、個々の農家単位では作付けや栽培管理が困難な圃場（耕作放棄地や離農を考えている圃場）を大里ファームが借り受けて年間の営農計画を策定し、各集落が水稻やそばの営農を主体的に管理・実施したことです。収穫～出荷調製作業や資金管理（交付金等を含む）は大里ファームが行っています。

作付品目をそばにすることで栽培管理が比較的容易で、助成金等を有効活用できるため、耕作放棄地や遊休農地が「収益を生む農地」に生まれ変わりました。

こうした活動を通じ、耕作放棄地を約10haを解消したことが評価され、平成25年に全国農業会議所会長賞を受賞しています。



耕作放棄地（再生前）



重機で整備中



トラクターでの3回以上耕起

←よみがえったそばの圃場

播種機をトラクターへ装着→

待ちに待った収穫作業



2つ目は、そばの六次産業化に向けた様々な取組みに挑戦している点です。「鹿角市産のそばを有名にしたい」との思いから、法人設立当初からそばの加工事業に取り組み、鹿角市のユネスコ無形文化遺産「大日堂舞楽(※2)」にちなんで自社産そばを乾麺にした「大日堂そば」は大人気商品となっています。

鹿角市産そばの消費拡大や認知度向上を目指して、(農)大里ファームでは様々なイベントを主催しています。毎年開催される「新そばまつり」では、事務所を開放して手打ちそばの提供やそば打ち名人による体験教室を実施し、令和元年に開催した新そばまつりでは参加人数が900人を超え、鹿角市産そばの認知度は着実に向上しているとのことです。大里ファームでは、地元中学校や婚活ツアーに出向いてそば打ち体験を提供したり、将来、消費の主役となる世代に向けたPR活動も実施しています。

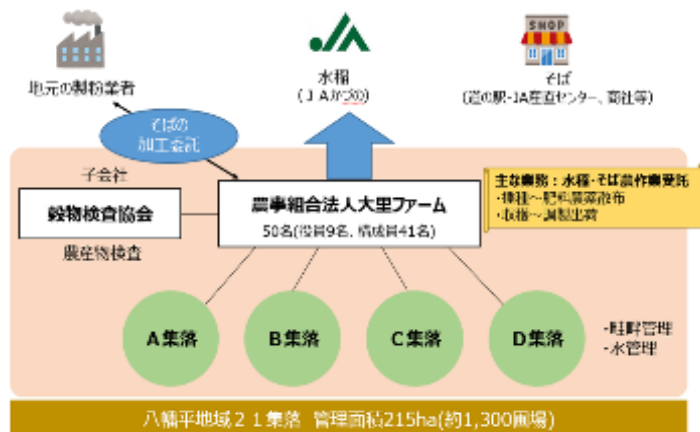


←自慢の大日堂そば

地元の八幡平中学校での出前講座 →



商流図・組織図



(※1) 集落ぐるみ型営農組織の特徴: 集落合意の下に、個々の農家が自己完結で営農する形態 (引用元: 農林水産省 集落営農の分類)

(※2) 大日堂舞楽: 秋田県鹿角市の大日霊貴神社(オオヒルメムチジンジャ: 通称大日堂)で、毎年正月二日に奉納される舞楽。1300年以上もの歴史を有しており、昭和51年に国の重要無形文化財に指定、平成21年にはユネスコの無形文化遺産に登録された。

大日堂そばの特徴

- 鳥 舞（茶色）：そば粉5割以上で、やまいもの粉末入です
- 権 現 舞（白色）：更科粉だけを使った高級志向のそばです
- 五大尊舞（黒色）：田舎風のそばが特徴で、そば好きにはたまりません
- 烏 遍 舞（ごま入り）：ごまの風味が香る逸品です
- 田 楽 舞（古代米入り）：古代米の色彩が、歴史を感じさせます
- 工 匠 舞（枝豆入り）：枝豆の風味が香り、お酒に合います
- 駒 舞（椎茸入り）：椎茸の風味が香るそばです

ＪＡかづの産直センター「おらほの市場」や道の駅「あんたらあ」で購入できます。

3. 今後に向けて

常に新たな取組みに挑戦し続けている大里ファームですが、今後の事業展開として①そば関連商品の新開発、②更なる販路の拡大、③新たな収益源の3つを掲げています。

自社産そばによるこだわったそば焼酎「大日堂」を新商品として販売するほか、大日堂そばの更なる販路拡大に向けた、ふるさと納税品や日本郵便のネットショッピングへの登録を目指しています。また、そばや水稻以外の様々な農産物を試験栽培し、新たな収益源を目指して常に模索しています。

今後に向けた抱負を大里ファームに聞いてみたところ、「資材の高騰や農政の変化など様々な要因により農業経営を取り巻く環境は非常に厳しいが、鹿角市産そばの更なる認知度向上と新たな収益源を確保することで、耕作放棄地の解消や持続可能な経営体を目指したい」と熱く語っていただきました。



Z-G I Sの画面



★営農管理システムZ-G I Sも積極的に活用しています。

次の機会に活用状況を紹介させていただきますので楽しみに！

◆主要花卉の現状と栽培ポイント◆

今月は、梅雨入りとなります。この時期は豪雨なども予想されますので、あらかじめ明渠（めいきょ）を掘るなど気象災害に万全な対策を講じてください。降雨後は、病害が発生しやすくなりますので、必ず薬剤散布による防除を行いましょう。年によっては空梅雨となり、好天続きで害虫の発生が多くなることもあります。日頃の観察を怠らず、適期作業による高品質生産を心がけることが大切です。また、この時期は真夏のような気温が続くことがあり、降雨の少ない日が多い場合は、圃場に灌水するなど臨機応変に対応してください。

【露地ギク】：キクは、本県花卉生産の販売額第一位品目で、全体の約4割を占めています。

■摘芯した株から3～6本のわき芽が伸びていますので、そのわき芽が輪ギクで3本、小ギクで4～5本となるように整枝します。勢いが強い枝や弱い枝を付け根からかき取り、平均的な枝を残すのがポイントです。定植が遅れたところや側枝の伸びが悪い圃場では液肥や灌水を積極的に行い、ボリュームアップと初期生育の確保に努めてください。

■梅雨時期は「白さび病」の発生に注意が必要です。整枝が遅れ、枝や葉が込み合うと発生を助長しますので、適期作業に努めてください。薬剤散布は1週間間隔で、予防剤を主体に発生を確認したら治療剤に切り替え、被害の拡大を防ぎます。また、ハモグリバエ、アブラムシ、ミドリカスミカメムシ、キクスイカミキリムシ等も発生する時期です。薬剤散布の際は殺虫剤も混用してください。



◎薬剤散布は、できるだけ午前中の涼しい時間帯に行い、周囲の農作物への飛散防止に十分注意しましょう！

【トルコギキョウ（8月出荷作型）】：県南・中央地区で多く栽培され、9月～10月に出荷する抑制栽培が主流となっています。

■草丈が15～20cmになるとチップバーンや茎折れの発生が多くなります。これらの障害は、多肥栽培や軟弱な株ほど発生しやすいため換気を図り、灌水過多にならないよう土壌水管理に注意してください。また、チップバーンの発生が多い品種や樹勢が強くなりすぎた場合は、定植後1カ月頃から出蕾期にかけて、カルシウム質資材を10日間隔で3～4回散布し予防しましょう。

■出蕾後の主枝中心花の摘蕾は、蕾が小豆大になったら行ってください。摘蕾が遅れると蕾に栄養が取られ花蕾のバランスが悪くなるため、摘蕾する蕾の大きさが3cm以内の時期まで実施してください。

【リンドウ】：平成14年に作付けが始まって以降、水田転作に適した品目として中央・県南地区中心に飛躍的に面積が拡大し、平成30年度の販売額は5億円を突破し、全国2位の品目となっています。

■6月は、茎の曲りが発生しやすい時期なので、ネット上げはしっかりと行ってください。1番下のネットは草丈の半分の位置、最上段のネットは草丈の8割までの位置とし、2段目のネットが最上段と最下段の中間の位置になるように調整します。ネット上げの際にネットから茎がはみ出る場合があるので、ネット上げが終わったらはみ出た茎をネットの中に入れ込みます。
この時、茎をおらないように注意してください。



■病害では「葉枯病」に加え、6月下旬から「褐斑病」が発生しやすくなります。6月下旬～7月下旬までの時期にストロビーフロアブルと「葉枯病」と同時防除できるダコニール1000を用いて防除してください。

【シンテッポウユリ】：露地水田転作できる種子系のユリで、主に鹿角市と横手市で栽培されています。

■梅雨期は、「葉枯病」の発生が多くなる時期です。薬剤散布は新葉の展開速度に合わせて7～10日に1回としますが、降雨によって「葉枯病」の発生が助長されますので、降雨後は必ず散布してください。株全体に薬剤が十分かかるように行ってください。

■ネットの引き上げ時期が遅れると、曲りの発生につながるので、こまめに引き上げを行ってください。



【ダリア】：平成19年から本格的に栽培が始まり、県では国内有数のダリア育種家と連携して育成した県オリジナル品種「NAMA H A G Eダリア」を主体に生産振興を進めてきた結果、栽培面積及び戸数ともに全国一位となっています。

■生育が旺盛になる時期です。ネットを引き上げて曲がらないようにしてください。下段のネットは地面から20～30cmの位置まで上げたら固定し、上段のネットは生育に応じ適宜引き上げ、通路にはみ出てくる新芽は軟らかいうちにネットの中に入れてください。

■豪雨などで排水不良になりやすい圃場は、あらかじめ明渠を掘るなど気象災害に万全な対策や準備をしてください。



◆各品種とも、「うどんこ病」やダニ、スリップス、アブラムシ等の病害虫が多く発生する時期です。適宜に防除を行いましょう◆

◎品目ごとの詳細については、各産地の栽培暦や技術情報を順守してください

NEW
NAMA H A G E®ダリア12期生



NAMA H A G E®ブラボー
中大輪・フォーマルデコラ咲き

NAMA H A G E®初の絞り品種。シックなエンジに赤絞りは、市場でもほとんど出回っていない色合いで、人気上昇の予感大！
茎は強く、生育旺盛、細身でスッキリ伸び上がります。
温度や環境によって、絞りの有無、花色に変化が見られます。



NAMA H A G E®エモ
中輪・インフォーマルデコラ咲き

人気の淡いサーモンピンクで、しっとりした独特の美しさがあります。
ステムや花首は非常に強く、草姿はスッキリ、花は上向きで露芯になりやすく、花持ちに優れます。
こちらもロングラン品種の予感！
低温期になると花底に黄色が入ります。

※秋田県園芸振興課作成資料より

国際教養大学の学食で秋田県産「サキホコレ」が振舞われました

ＪＡ全農あきたは秋田で新生活を迎える県内の国公立大学の新入学生のみなさんへ「食」でエールを贈るとともに、新生活の活力にしてほしいとの思いを込め、秋田県産「サキホコレ」を贈呈しています。

４月１０日、新学期初日を迎えた国際教養大学の昼食には、「サキホコレ」が炊き立てで振舞われ、学生からは「甘くてお米の粒がしっかりしている」「学食で提供されるご飯が毎日サキホコレだったらいいのに」といった声のほか、短期留学生からも「秋田の他の品種のお米も食べてみたくなった」などの感想が聞かれました。



ＪＡ全農あきたでは、今後もみなさんの秋田での学生生活が秋田県産農畜産物でより豊かになるように応援していきます！

「HAPPY TOGETHER ONE」プロジェクト第1弾～「サキホコレ」播種作業

今年も「HAPPY TOGETHER ONE」プロジェクトが始まりました！

このプロジェクトは、JA全農あきたと秋田ノーザンハピネッツがJA秋田おばこ、大曲農業高等学校とともに秋田米新品種「サキホコレ」の農作業を行い、収穫したお米を秋田ノーザンハピネッツに贈呈することで一層の活躍を応援する企画です。

今年もJAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」の佐々木竜孝会長にご協力いただき、農作業を行います。



◆令和5年度「HAPPY TOGETHER ONE」プロジェクト第1弾となる「サキホコレ」の播種作業（種まき）を行いました。

あらかじめ床土をいれた育苗箱に、機械を使って水をかけ、種もみを120gずつまきます。

さらに上から土をかぶせ、ハウスに並べます。JA全農あきたの職員も参加しました。



全農杯 2023 年秋田県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部) 秋田県予選会開催！

ＪＡ全農が平成２５年から特別協賛している「全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の秋田県大会が４月３０日、秋田県立体育館で開催されました。

大会はホープス（小学６年生以下）の部とカブ（小学４年生以下）の部、バンビ（小学２年生以下）の部に分かれて行われ、全県から約２１０人の選手が参加し、熱戦を繰り広げました。



各種目（ホープス、カブ、バンビ）の男女上位５名は７月に兵庫県で行われる全農杯２０２３年全国卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）に出場します。秋田県代表選手の皆さんの活躍を期待しています！！



ＪＡ全農あきたは、優勝から３位までの選手に、「秋田県産あきたこまち」や「秋田県産”のむ”りんご（ジュース）」、「秋田のお肉たっぷりセット（レトルトカレーなどの詰合せ）」を贈呈しました。

また、全選手に「秋田県産”のむ”りんご（ジュース）」を参加賞としてプレゼントしました。

ＪＡ全農あきたは、今後もスポーツ支援活動を通じて、次世代を担う子どもたちの夢を応援していきます！

農業用ドローンによる水稻種子散播実演会を行いました！

J A全農あきたは5月9日、J A秋田おばこおよび生産者、株式会社丸山製作所の協力のもと大仙市「農業用ドローンによる水稻種子散播実演会」を行い、県内の生産者やJ A担当者が参加しました。

近年、生産現場で導入が進む農業用ドローンの使用は除草剤や殺菌殺虫剤の農薬散布がメインとなっていますが、水稻種子散播のニーズも潜在的に存在しています。しかし、水稻種子散播はオペレーターの熟練度によって吐出量の調整や均一散布への影響が大きいことが課題となっています。そこで、今回の実演会では目標収量が得られる好適な散播条件を確認するために実施されました。

実演会では約1haの圃場に、DJI社製ドローン「T30」を用いて、業務用多収品種「ゆみあずさ」のべんがらモリブデンコーティング種子を10aあたり約5kg散播し、散播にかかる時間や均一に散播されているかなどを確認しました。

J A全農あきたは「実証を重ね、農業用ドローンによる水稻種子散播の普及性を確認して行きたい」と話しました。



ベンがらモリコーティング水稻種子



ドローンへ種子を投入



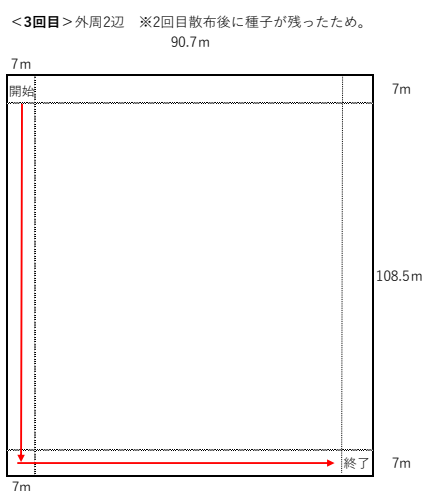
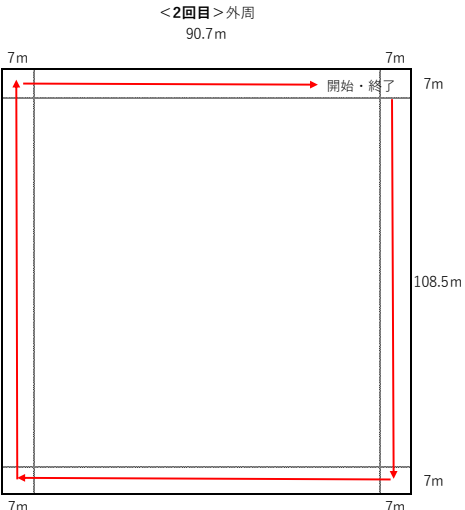
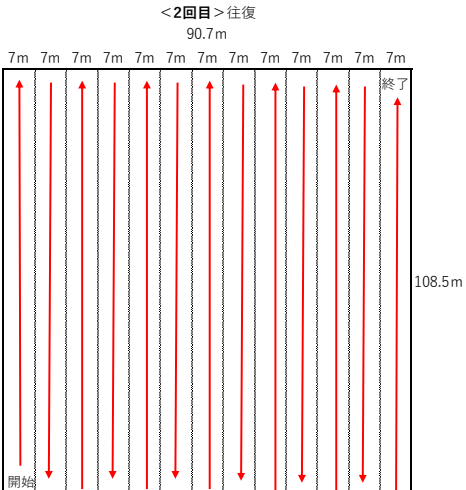
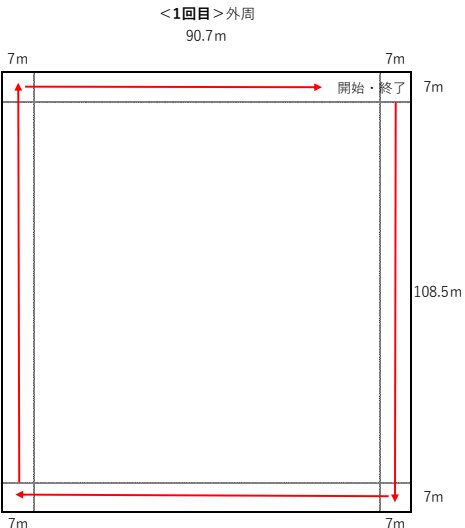
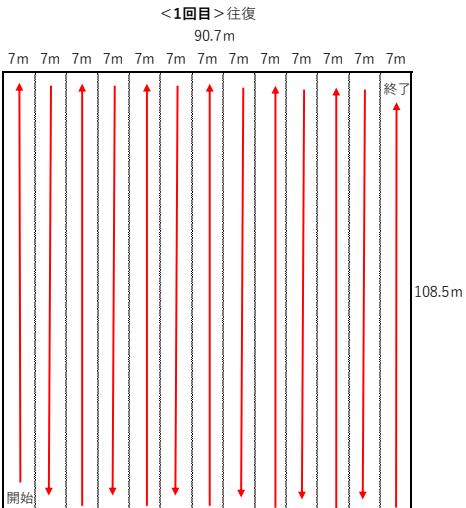
充電し待機するドローン



農業用ドローンの水稻種子散播を見学する参加者



【実証圃 散播ルート】



今後は水稻の生育状況や収量について調査をするほか、7月にはドローンを用いた追肥実演会を行う予定です。

ＪＡ全農あきたは引き続き、ＩＣＴ技術を活用したスマート農業の普及促進に努めてまいります。

第34回 秋田県
**JA農業機械
大展示会**

Ai
Artificial Intelligence

新たな秋田の農業へAiの技術を

2023年
6月 **14**^水**日** **15**^木**日** **16**^金**日**

9:00~15:30 9:00~15:30 9:00~15:30

【会場】秋田県立スケート場
主催/JA・JA全農あきた 共催/JA秋田中央会 後援/秋田県

JA全農あきた

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第40号 令和5年6月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462